川村雅則ゼミⅠ・Ⅱ

参加学生数17名

川村 雅則
経済学科
教授

学生アルバイトをめぐる問題
若年労働者の過重労働、過労死問題

研修地：札幌市

◉研修目的

○社会問題として認知されてきた学生アルバイトをめぐる問題を明らかにし、学生や教育機関に何ができるかを考えるために、今年度も、2年生を中心に、学生アルバイト調査（聞き取り、アンケート）を行い、『学生アルバイト白書』をまとめた。
○若年層にも広がる過重労働と、過労死・過労自殺。その実態と問題解決策を考えるため、被災者遺族や、労災支援にあたるNPO関係者と弁護士、加えて、地域の労働組合関係者から話を聞いて、論文を執筆した。

研修地・日程

前期	若者の雇用や労働法に関する学習。 学生アルバイトの聞き取り調査を実施。 人文学部の学生に、学生アルバイト問題の講義（3年生）。 日本学生経済ゼミナール大会への参加準備を開始（3年生）。
夏季休業期間	札幌地域労組事務所を訪問して、労働組合についての学習（8月15日）。 地下歩行空間で開催された反貧困ネット北海道主催「生活相談会・学習会」で、学生アルバイトをめぐる問題について報告（9月4日）。
後期	飲食店で働く学生を対象としたアンケート調査を実施。 『学生アルバイト白書2016』のとりまとめ作業に従事。 NPO法人働く人びとのいのちと健康を守る北海道センターを講師に、過労死問題について学習（9月30日）。 過労死遺族と弁護士を講師に、過労死問題について学習（10月21日）。 大学生が考える過労死問題シンポジウムを本学にて開催（11月25日）。 学生アルバイト問題を考えるシンポジウムを本学にて開催（12月13日）。

写真キャプション　1 田中(綾)ゼミ所属の学生にアルバイト問題を講義。2 札幌地域労組にて鈴木一さんを講師に学習。3 この話は将来役に立つと真剣に聴講。 4 食事をしながらアルバイト先の労働相談。5 地下歩行空間にて反貧困ネット北海道の相談会・学習会。6 学生アルバイト問題を市民に講演。7 いのけん道センターの佐藤誠一さんに学ぶ過労死問題。8 過労死遺族と弁護士による深刻なお話。

◉総　括

学生アルバイトをめぐる問題については、世間にかなり知られてきた気がする。ゼミで毎年行っている調査活動と『学生アルバイト白書』づくりもそこに貢献していると思われる。今年も、聞き取り調査と、飲食店で働く学生を対象にしたアンケート調査を行った。アルバイト先での問題は、例年の調査にみられる通りで、今年の調査でも例えば、賃金不払い労働、勤務・働き方に関する問題（シフトに勝手に入れられる、休憩に入れない）、厳しい叱責・パワハラなどがあげられた。ワークルールを知らずに働き始めている学生が少なくないことも気になった。

問題の解決策として、ワークルールを学ぶことはもちろんだが、労働条件は労使が対等の立場で決めるものであり、使用者が一方的に決めるものではない、という自覚が必要である。そこで今年も、地域の労働組合（札幌地域労組）を訪問し、労使関係・労働組合の重要性について、具体的な相談事例・取り組みにもとづきながら学んだ。

以上の詳細は、『学生アルバイト白書2016』を参照されたい。

➡http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~masanori/index　からダウンロード可

学生研修記

高橋 大樹
経済学科２年
士別翔雲高校出身

様々な労働問題を知った上で

今回私たちは、学生アルバイトの実態を中心に、様々な労働問題を学んできました。

正直、このゼミに入る前は労働問題にあまり関心がありませんでした。しかし、北海学園生のアルバイト調査に取り組んだり、札幌地域労組やNPO団体など関係者からお話しを聞くなかで、日本の労働実態やワークルールを若者が知らないのは危険だと分かりました。理解が深まるとともに学ぶ意欲も高まりました。

未払い残業や、仕事でミスをした場合に給料から天引きされるなどをアルバイトで経験した方もいると思います。それが間違いだと気づけること、対処方法を事前に知っていることの大切さを学びました。

実際には、労働問題やワークルールを知らずに働いている人が多いことが調査で明らかになりました。高校段階からアルバイトをする人も多いので、学ぶ環境を整えることが必要だと思いました。

中村 優太
経済学科２年
北海高校出身

身近にあるアルバイト問題を学んで

この一年間、私たちは、学生アルバイト問題を中心に学んできました。労働問題や労働法・労働組合に関する文献を読んで大事な点をまとめたり、北海学園大学の学生を対象にした聞き取りやアンケートを実施しました。調査活動では、長時間労働や残業代の不払い、ミスに対する給料からの天引きなど、様々な問題がアルバイト現場でも発生していることがわかりました。そして、夏季休業期間中には、札幌地域労組という組合を訪問して、労働問題の解決策を具体的に学びました。

みなさんの中にもアルバイトをしている人は多くいると思います。働いていて、これはおかしいと思ったことはありませんか？　大切なことは、労働者としての権利や働く上でのルール（ワークルール）をどれだけ理解しているかということです。実際は多くの人がそれを知らない状況です。この現状を変えることがなによりも大事だと思いました。

1

2

3

4

過労死問題シンポジウムを終えた達成感

過労死問題の現状と対策は　北海学園大でシンポ

北海学園大（札幌市）の学生が過労死問題の現状や対策を報告する「大学生が考える過労死問題シンポジウム」が２５日、同大で開かれ、労働基準法などのワークルールを学ぶ必要性などを訴えた。

労働経済学を専攻する田村雅則教授のゼミが、過労死問題を研究してきた３年生７人に発表の場をつくろうと初めて実施。学生や他地区から約４０人が出席した。

ゼミ生たちは、電通の若手社員が過労自殺した事例などを紹介。長時間労働の背景に、無制限の残業を事実上可能にする労使協定「三六（さぶろく）協定」や、経済優先の考え方があると指摘した。

今後の対策としては、義務教育でワークルールを学ぶようにしたり、道内の学生らで団体を立ち上げ、労働時間の上限を設ける条例づくりを目指したりすることなどを提案した。

シンポの様子が『北海道新聞』に掲載

過労死問題シンポジウム（学内）

NHK札幌放送局に取材を受ける

シンポを前に何度も繰り返し練習

いざ発表

学生が考える問題解決策も提示

３年生は、日本学生経済ゼミナール大会（インゼミ大会）に参加するため、若年労働者にひろがる過重労働、過労死問題を調査・研究テーマに設定して、文献研究、論文の執筆を進めてきた。その上で、過労死問題をより具体的に学びたいという問題意識で、後期に入ってからは、労災申請の支援などを行っているNPO団体（働く人びとのいのちと健康を守る北海道センター）を講師にお話を聞いたほか、過労死遺族と弁護士を講師に学習を深めた（後者は、2016年から厚生労働省で始められた「過労死防止・労働条件に関する啓発授業」の一環でもある）。

こうした調査・研究の成果を論文にまとめて、12月に山口大学で開催されたインゼミ大会で報告したほか、その前に、過労死問題をテーマに学内でシンポジウムを開催した。大手広告代理店における新入社員の過労自死が社会的に大きな問題になったこともあって、ゼミ生たちの取り組みは報道機関にも何度か取り上げられた。

また３年生は、他学部のゼミ生や市民に、アルバイト問題の講義・講演も担当したことを付記しておく。

学生研修記

藤岡 宣裕
経済学科３年
札幌第一高校出身

地域研修を通して見えた過労死問題

僕たち川村ゼミⅡは、現代日本の雇用、労働、生活問題について学ぶ中で、近年増加している「過労死問題」に焦点をあてて調査活動を行ってきました。

地域研修の活動として、まず、札幌地域労働組合を訪問し、労使関係、労働組合について学びました。「労働者と使用者は対等であること」「職場で辛い目にあっても泣き寝入りしないことの大切さ」などを学び、良い職場環境を作るためには労働組合の存在が大切であることがわかりました。後期に入ってからは、過労死被災者・遺族の支援をしているNPO関係者や遺族の方などから話を聞いて、病院における過酷な労働実態――長時間夜勤や新卒看護師には厳しすぎる過酷な仕事の実態を知りました。関係者から実際に話を聞くことで、過労死問題というものがどんなものなのかをより深く知ることができた気がします。

伊藤 紗瑛
経済学科３年
大麻高校出身

職場での働かされ方

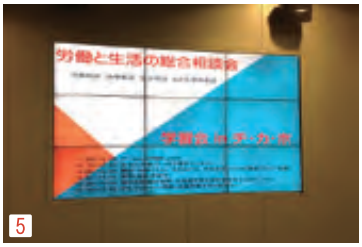
「過労死」。これは私たちが学んできたテーマです。年々増加する労災請求件数の中で、特に若者の過労自死が増えてきています。背景には、時間外労働の労使協定（36協定）をめぐる制度問題や日本経済が辿ってきた企業中心社会の構図、日本的雇用など多くの問題が絡んでいます。先行研究などからこれらを学んだ上で、過労死の実態を明らかにしようとNPO法人働く人びとのいのちと健康を守る北海道センター、被災者遺族や弁護士の方々にお話を聞きました。長時間残業や達成困難なノルマの要求で心身ともに疲弊していく実態が見えてきました。

以上を踏まえ、労働基準法の改正や労災認定の見直し、労働組合のあり方、労働教育や過労死防止法の活用といった、過労死問題の解決策を私たちなりに考え、みんなで執筆した論文を手にインゼミ大会で学びを深めてきました。

日本学生経済ゼミナール大会

山口大学で開催されたインゼミに参加

対戦校との2日間にわたる討論・健闘をたたえ合って



5

6

7

8